

構造設計標準仕様

適用は ☒ 印を記入する。

1. 建築物の概要

工事名称・両石地区集会所建設（建築主体）工事
建築場所・金石市
用途 ☒ 消防屯所 ☐
工事種別 ☒ 新築 ☐ 増築
規模 地下 0 階 地上 1 階
構造種別 ☒ 木造
建築工法 ☒ 軸組工法 ☐ 枠組壁工法（2×4工法）
増築計画 ☒ 無 ☐ 有
設計条件積雪 80 cm
その他

2. 使用構造材料

(1) コンクリート

適用箇所	種類	基準強度(N/mm ²) 設計Fc品質Fq	スランブ (cm)	備考
捨コンクリート	普通	15	—	15
無筋コンクリート	普通	16・18	—	
土間コンクリート	普通	21	—	15
基礎、基礎梁	普通	21	24	15

(2) 鉄筋 JIS規格品とする。

異形鉄筋 ☒ SD295A ☐ SD345（径 D19 以上）
溶接金網 ☒ 6φ 150×150

(3) 構造部材 JAS規格品または法第37条第二号による認定品とする。

(4) 構造用面材 JISおよび JAS規格品または法第37条第二号による認定品とする。

(5) 釘 JISおよび JAS規格品または法第37条第二号による認定品とする。

(6) 接合金物 ☐ (財) 日本住宅・木材技術センターが定める規格に適合する Cマーク表示製品およびその同等品
☒ (財) 日本住宅・木材技術センターが定める規格に適合する Zマーク表示製品およびその同等品

(7) アンカーボルト

(財) 日本住宅・木材技術センターが定める規格に適合する Zマーク表示製品及びその同等品とする。
M12 ☒ (☒ L=400 ☐ L=450 ☐ L=500)
M16 ☐ (☐ L=600 ☐ L=700 ☐ L=800 ☐ L=900)
(☐ L=400 Zマーク表示金物同等品)

(8) その他

コンクリートブロック JIS A 5406
☐ A種 ☐ B種 ☐ C種 厚 100 ☐ 120 ☐ 150 ☐ 190

3. 地 盤

地盤調査により、所定地耐力の確認を行う。

地盤調査方法 ☐ 目視（地質）
☒ 静的貫入試験（スウェーデン式サウンディング調査）
☐ 標準貫入試験（ボーリング調査）
☐ 含水比測定
☐ 平板載荷試験

その他 地調査結果がある場合であっても現場状況によって
工事監理者の指示により、杭長、杭種、直接基礎の深さ、
形状を変更する場合もある。

4. 土 工 事

根切りは機械掘りを基本とするが、根切り底は鋤取りにて丁寧に造る。
また周辺、土質、地下水等状況によりのりをつけるかまたは山留めを設ける。
根切り土は場内敷き均しを基本とする。ただし、悪質土は場外処分とする。
埋め戻しは良質土によりランマー等による転圧を十分行う。
深さ1mを越える山留めは、特記による。

5. 地業工事

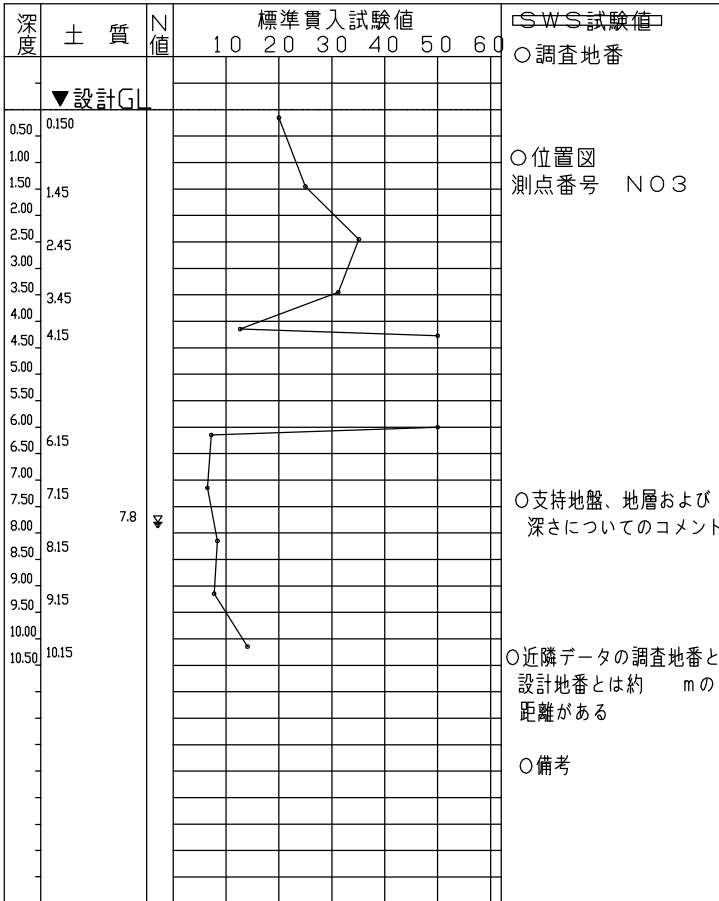
☒ 地業砕石 C40-0又はRC40-0
☐ ラップル
☐ 地盤改良
☐ 表層セメント改良工法
(設計改良強度 Fc = kN/m² 改良厚 m)
配合試験 ☐ 有 ☐ 無 (☐ 有機質土無 ☐ 黒色土無)
☐ 深層柱状改良工法
※鉛直精度の確認できる施行機械を用いる。
※トルク計または電流計により支持層の確認できる施工機械を用いる。
(改良強度 kN/m² , φ = mm L = m)
配合試験 ☐ 有 ☐ 無 (含水比100%以内で有機質土無)

☐ その他

(工法)

☒ 直接基礎 (☒ 布基礎 ☐ ベタ基礎)
支持層
深さ SGL - 0.5 m - m
☐ 50 kN/m² ☒ 30 kN/m² ☐ 20 kN/m² 以下 (ベタ基礎)
☐ 35 kN/m²
☐ 既製杭基礎
杭種 ☐ 鋼管杭 (工法)
施工機械の重量 kN 以上
杭載荷試験 ☐ 有 ☐ 無
建柱車の使用 ☐ 無 ☐ 有 (先端支持力係数150以下)
☐ 摩擦杭 (工法)
☐ PHC杭 (セメントミルク工法)
☐ その他 (H型PCパイプ L=6.0m、28セットで想定)
長期杭耐力 50 kN/本

SWS試験、土質調査（基礎、杭の位置を明記すること。）



6. 鉄筋コンクリート工事

(コンクリート)

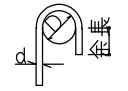
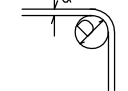
コンクリートは JIS 認定工場の製品とする。
セメントは特記なき限り普通ポルトランドセメントを標準とする。
調査計画は、工事着工前に工事監理者の承認を得る。
圧縮強度試験供試体 (JASS 5T-603) は下記 ☒ 印により、採取は打ち込み工区ごと、打ち込み日ごととする。
☐ 現場水中養生 強度管理材齢 28日 Fq = Fc + 3 N/mm²
☒ 標準水中養生 強度管理材齢 28日 Fq + T = Fc + 3 + 温度補正 N/mm²
Fc : 品質基準強度
T : 温度補正

なお、採取本数は特別指示なき限り一回につき四週用に3本とする。
ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置に出来るだけ近づけて垂直に打つこと。
打ち込み継続中における打ち継ぎ時間の限度は、外気温25℃未満の場合は2.5時間、25℃以上の場合は2時間以内とする。

(鉄筋)

鉄筋は、JIS G3112の規格品を標準とし、材料規格証明書を工事監理者に提出すること。
原則としてD19以下は、重ね継手とする。

(1) 鉄筋末端及び中間部の折曲げ形状・寸法

折り曲げ図		
部 位	末 端 部	中 間 部
折り曲げ内の寸法 (D)	2 d 以上	3 d 以上
余 長	4 d 以上	—

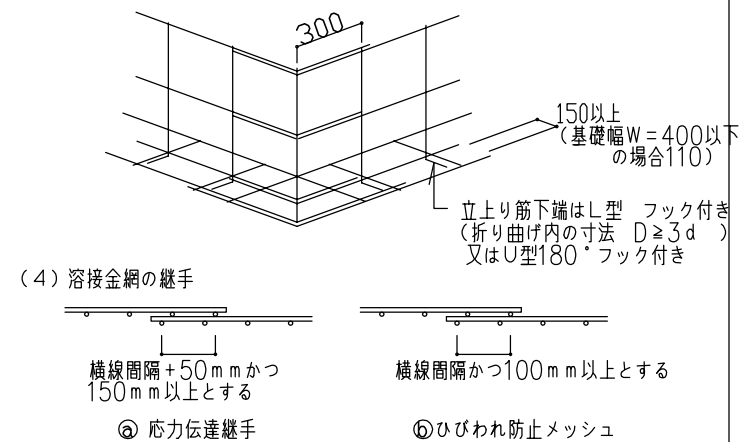
(2) 鉄筋の重ね継手の長さ（布基礎隅角部は除く）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 (N/mm ²)	重ね継手長さ
SD295A	21 24	40 d (45 d) 又は 30 d フック付
(SD345)	18	45 d (50 d) 又は 35 d フック付

※ () は SD345 の場合を示す。

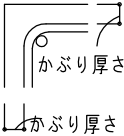
(3) 布基礎隅角部配筋補強

布基礎隅角部では各横筋を折り曲げた上、直交する他方向の横筋に300mm以上重ね合わせる。



(6) かぶり厚さ

部 位	設計かぶり厚さ (mm)
基礎立上がり	50
基礎底板	70



(7) 鉄筋のあき

異形鉄筋 1.5 d 以上（鉄筋間隔 1.5 d + 鉄筋の最外径）
粗骨材の最大寸法の 1.25 倍以上かつ 25 mm 以上
(型 枠)

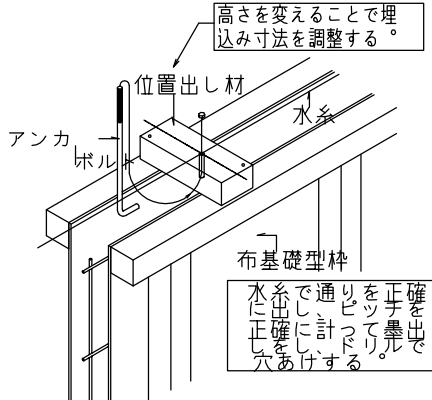
材料は、合板厚12mmまたは金属製型枠パネルを標準とする。
基礎、はり側のせき板の最小存置期間は下記による。ただし、コンクリートの圧縮強度が5N/mm² 以上であることを確認すれば、取り外してよい。
平均気温15℃以上 3日 ・ 平均気温5~15℃ 5日 ・ 平均気温5℃以下 8日
(注記) 平均気温は、型枠の存置期間中の平均気温を示す。

工事監理者に事前連絡し指示を受けるもの。

☒ 配筋検査
☐ 型枠検査

(アンカーボルト)

アンカーボルトの据付けは、テンプレート等を用いて設計寸法所定位置にセットする。なお、コンクリート打設時に移動しないよう固定する。
コンクリート打設後アンカーボルトの移動がない事を確認する。



(M16アンカーボルト等据付方法例)

7. 設備関係

令第129条の2の4の事項

建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。

■建築設備（昇降機を除く）、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽の恐れがないものにする事。
■屋上から突出する水槽、煙突、冷却塔その他これらに類するものは、支持構造部又は建築物の構造耐力上主要な部分に、支持構造部は、建築物の構造耐力上主要な部分に緊結する事。
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。

□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。

■建築物に設ける給水、排水その他の配管設備は
■風圧、土圧及び水压並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障の無い構造とすること。


■建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。

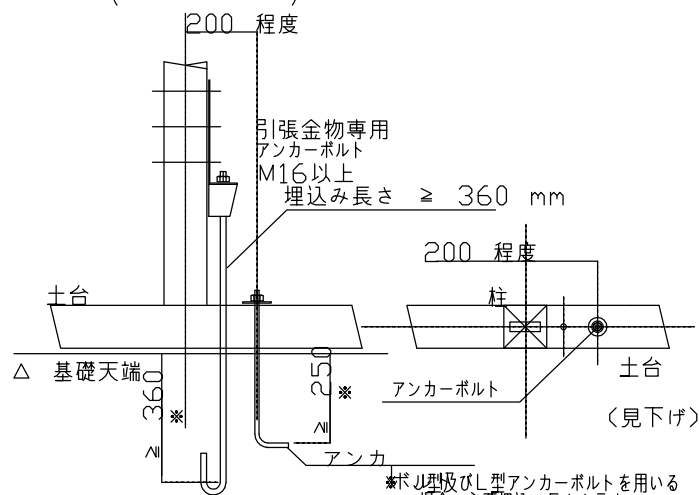
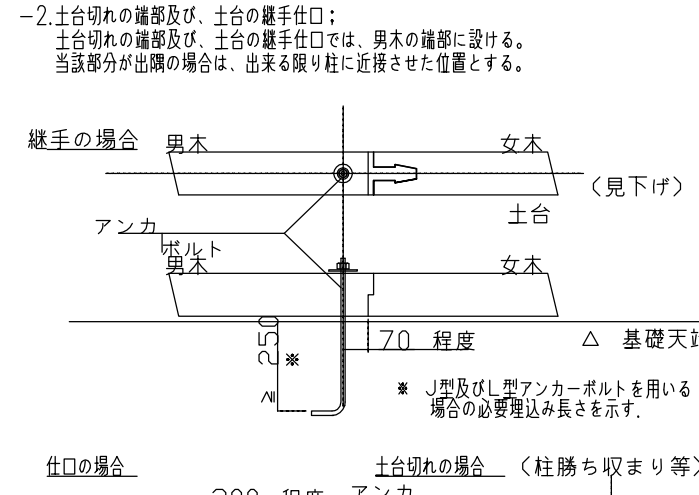
■管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可動継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。
■管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。


■法20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上から突出する水槽、煙突その他これらに類するものにあつては、建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする事。

給湯設備*は、風圧、土圧及び水压並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障の無い構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については地震に対して安全上支障の無い構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法による事

*「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で屋上水槽等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

	一級建築士事務所 若手係 第4711270号	承認	審査	検図	製図	特記	改訂番号	改訂月日	改訂内容	業務番号 2020-7	工事名称 両石地区集会所建設（建築主体）工事 図面内容 構造設計標準仕様	縮尺	図例 建築構造 S-01
	一級建築士登録 第199484号 八幡康正												

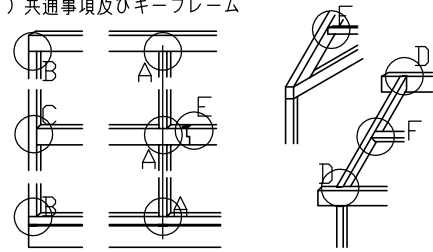
木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 (1)			
1 ． 一 般 事 項	2 ． 材 料	3 ． アンカーボルト	4 ． 接 合 一 般
<p>(1) 適用範囲</p> <p>※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。</p> <p>木造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>(2) 設計図書</p> <p>設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>(3) 準拠する図書</p> <p>設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（ ※全て最新版による。）</p> <p>「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）</p> <p>「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官房官庁営繕部監修）</p> <p>「木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)」（日本住宅・木材技術センター）</p> <p>「日本工業規格 JIS A3301－2015 木造校舎の構造設計標準」(2015年改訂版)</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>(4) 設計図書の優先順位</p> <p>設計図書の優先順位は下記による。</p> <p>1. 指示書（現場説明書及び質疑回答書）</p> <p>2. 設計図</p> <p>3. 特記仕様書</p> <p>4. 本標準図</p> <p>(5) 疑義</p> <p>疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>(6) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出</p> <p>工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。</p> <p>(7) 施工図及びプレカット図の提出</p> <p>工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>(8) 製作工場の選定、承諾</p> <p>設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける</p> <p>(9) 各種試験・検査報告書の提出</p> <p>施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合工法</p> <p>本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。</p> <p>・継手仕口による在来工法</p> <p>・梁受け金物、及びホソパイプ等による金物工法</p> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で混用して構わない。</p> <p>また、本標準図は在来接合工法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。</p> <p>本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項</p> <p>本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。</p> <p>・梁: 部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同寸～450mm、及び材長6 m以下</p> <p>・柱: 90角～150角の正方形断面、長さ6 m以下</p> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<p>(1) 木材及び木質材料</p> <p>主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>(2) 接合具</p> <p>a)くぎ</p> <p>主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄丸くぎ（N釘）または太め鉄丸くぎ（CN釘）または溶融亜鉛メッキ太め鉄丸くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっこうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b)木質構造用ビス</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。</p> <p>使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c)ボルト・ナット・座金</p> <p>1) 主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。</p> <p>・ボルトはJIS B 1051 ,ナットはJIS B 1052 に規定される機械的性質を満たす炭素鋼</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット</p> <p>【 Zマーク表示金物 】</p> <p>【 Dマーク表示金物 】</p> <p>【 Sマーク表示金物 】</p> <p>・上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット</p> <p>2) 主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。</p> <p>3) ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を緊結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</p> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d)ドリフトピン・ラグスクリュー</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e)木柱・木ダボ</p> <p>主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。</p> <p>樹種・径等については、特記仕様書で指定する。</p> <p>節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>(3) 接合金物</p> <p>a)規格金物</p> <p>構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。</p> <p>・JIS A 5531；木構造用金物</p> <p>・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物；Zマーク表示金物、又は Cマーク表示金物</p> <p>・同等認定金物；Dマーク表示金物</p> <p>・性能認定金物；Sマーク表示金物</p> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用できる。</p> <p>使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b)製作金物</p> <p>製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>(4) 接着剤</p> <p>原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。</p> <p>建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>(5) 防腐防蟻処理及び耐候処理</p> <p>防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。</p> <p>土台及び外壁の地盤面から1 m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。</p> <p>適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<p>※共通事項</p> <p>・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</p> <p>(1) 土台固定用アンカーボルト</p> <p>a).アンカーボルトの埋設位置； アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>－1.耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部；</p> <p>耐力壁(筋交い,合板仕様共通)の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置(柱芯より200mm内外)とする。</p>  <p>－2.土台切れの端部及び、土台の継手仕口；</p> <p>土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。</p> <p>当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p>  <p>－3.その他；</p> <p>上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>(2) 引張金物専用アンカーボルト</p> <p>a).引張金物専用アンカーボルトの径</p> <p>引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b).引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ</p> <p>引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<p>(1) 釘接合</p> <p>・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。</p> <p>・面材表面に対し、釘頭がめり込んではならない。</p> <p>・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうえに手で打込んで仕上げる等により、釘頭のめり込みを防ぐ。</p> <p>・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。</p> <p>・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>(2) 木質構造用ビス接合</p> <p>・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。</p> <p>(3) ボルト接合</p> <p>・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、過度に締め付けない。</p> <p>・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、座屈り座金等、ナットと座金为一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。</p> <p>・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、弛み止め等の適切な処置を行う。</p> <p>(4) ラグスクリュー接合</p> <p>・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。</p> <p>・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</p> <p>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。；</p> <p>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</p> <p>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</p> <p>※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。</p> <p>・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等での叩き込みによる挿入を行ってはならない。</p> <p>・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。</p> <p>・鋼板を側材に用いる場合はラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。</p> <p>・呼び径 M12以下；+1.0mm</p> <p>・呼び径 M16以上；+1.5mm</p> <p>(5) ドリフトピン接合</p> <p>・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、孔に対しテーバーのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>(6) 木柱接合</p> <p>・木柱は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</p> <p>・木柱は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、木柱を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。</p> <p>・木柱は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</p> <p>(7) グルードインロッド接合</p> <p>・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等挿入して、樹脂接着剤等を注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。</p> <p>・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</p> <p>・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</p>

	YAHATA ARCHITECTS STUDIO 株式会社 八幡建設建築設計事務所 岩手県岩手市岡石町第4地割26番地12 TEL0193-23-6438AX0193-23-6712	一級建築士事務所 若手係 第14711号 一級建築士監理 第199484号 八幡康正	承認	審査	検図	製図	特記	改訂番号	改訂月日	改訂内容	業務番号 2020-7	工事名称 両石地区集会所建設（建築主体）工事 図面内容 木造軸組接合部標準図（1）	縮尺	図例	建築構造
														●	S-02

木造軸組接合部標準図(2)

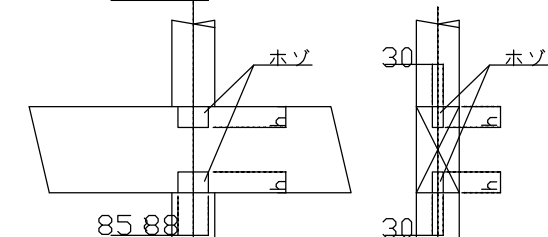
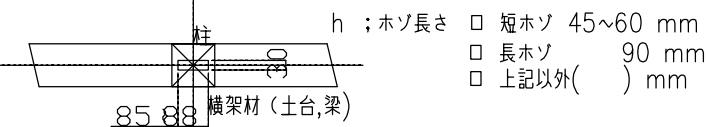
5. 軸組標準接合部

(1) 共通事項及びキーフレーム

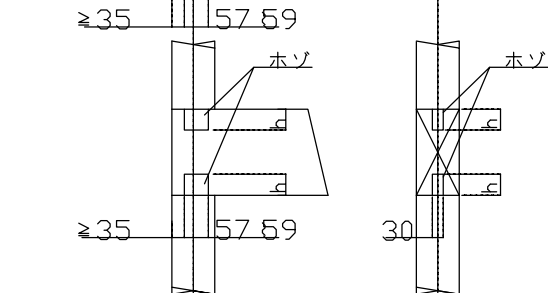
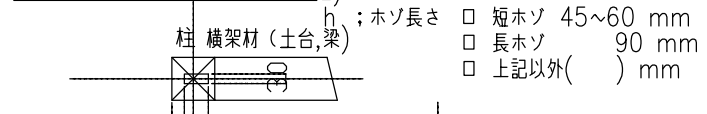


(2) 標準的な継手仕口 (mm)

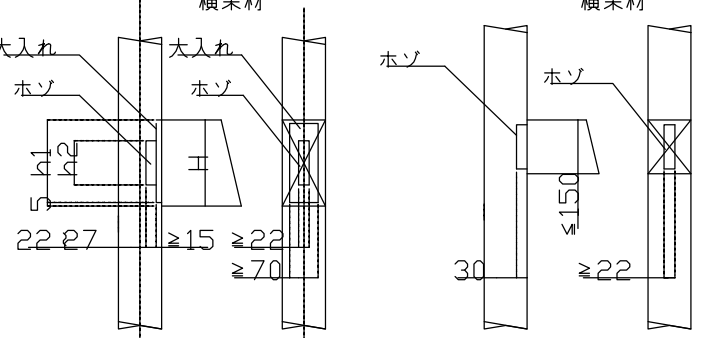
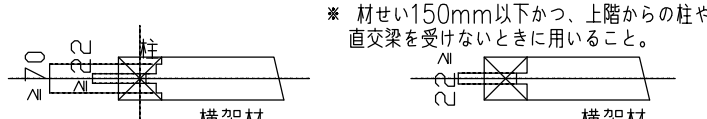
A 柱-横架材仕口:一般部(土台共通)



B 柱-横架材仕口:出隅部(土台共通)



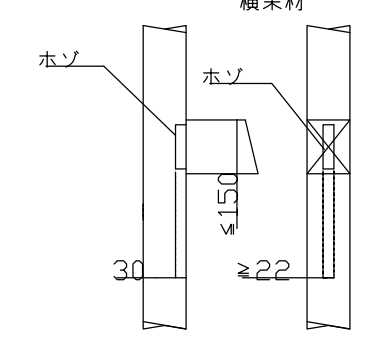
C 通柱-横架材仕口:胴差し



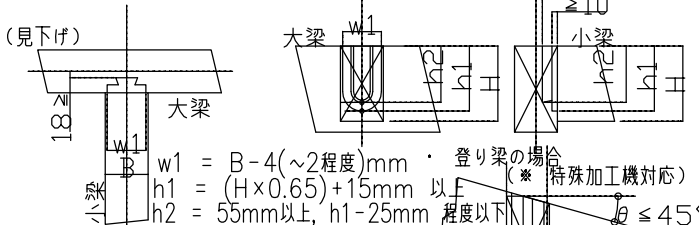
h1 = H-5 mm 程度
※ 胴差しで通し柱に取り付け方向は、2方向までとする。

C 通柱-横架材仕口:桁差し

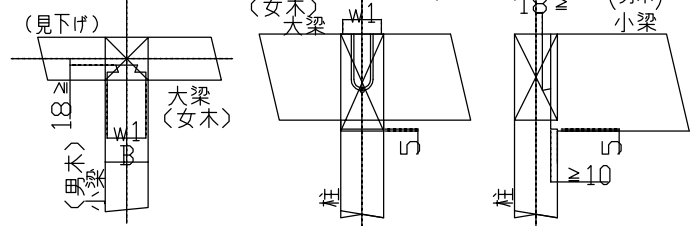
※ 材せい150mm以下かつ、上階からの柱や直交梁を受けないときに用いること。



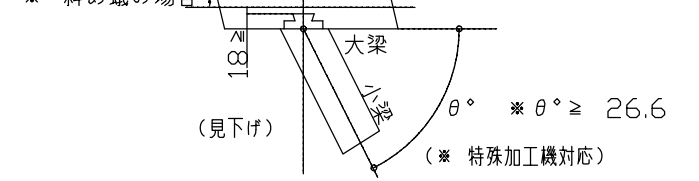
D 大梁-小梁仕口:蟻仕口



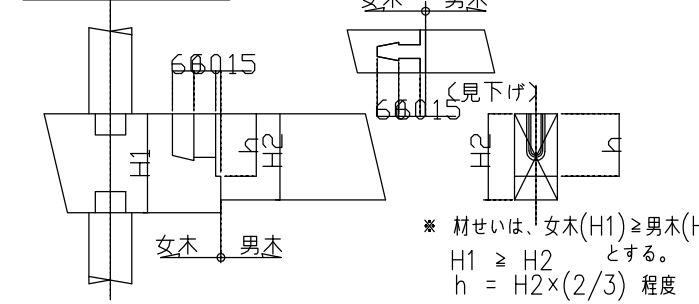
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。
※ 小梁せいが大梁せいより大きい場合;
小梁せいが大梁せいより大きい場合には、
柱持たせのおさまりとしなければならない。(下図参照)



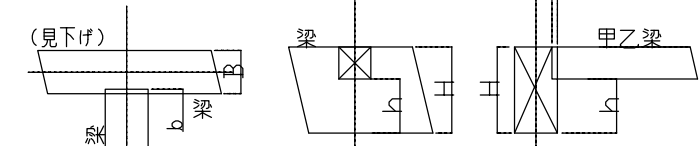
※ 柱持たせの柱幅は、大梁の幅と同寸以上とする。
※ 斜め蟻の場合;



E 梁-梁継手:腰掛継ぎ

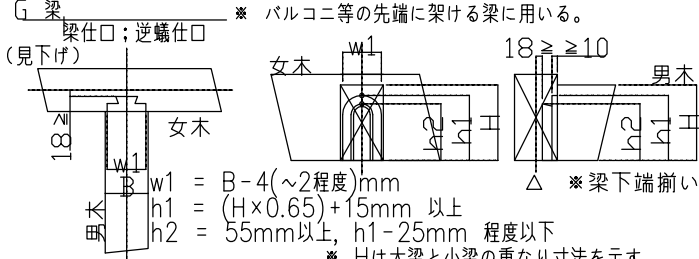


F 梁-甲乙梁仕口:大入れ



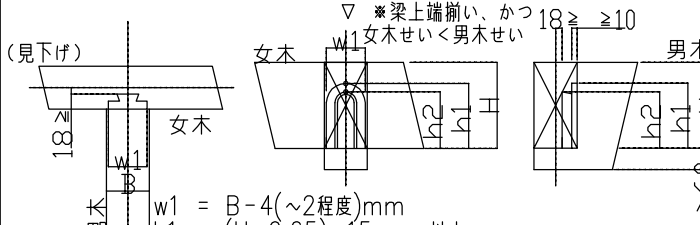
※ 材せいは、女木(H1)≧男木(H2)とする。
h = H2×(2/3) 程度

G 梁-梁仕口:逆蟻仕口



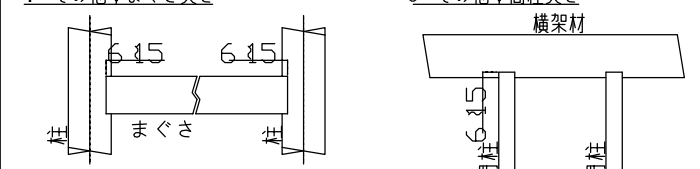
※ Hは大梁と小梁の重なり寸法を示す。

H 梁-梁仕口:茶臼仕口



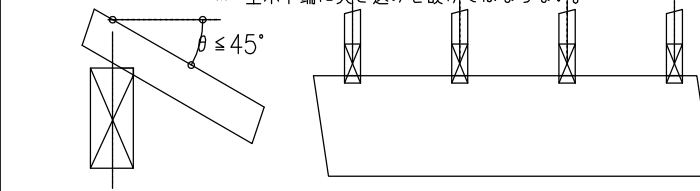
※ バルコニ等の先端に架ける梁に用いる。
※ 梁上端削い、かつ
※ 女木せいく男木せい

I その他:まぐさ欠き



※ 筋交い耐力壁の中棧も上図に準じる。

K その他:垂木欠き

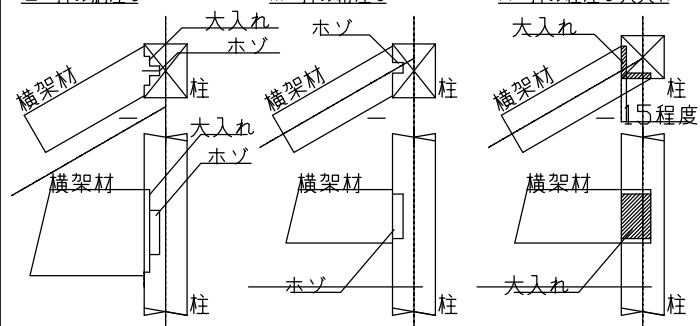


※ 垂木下端に欠き込みを設けてはならない。

(3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

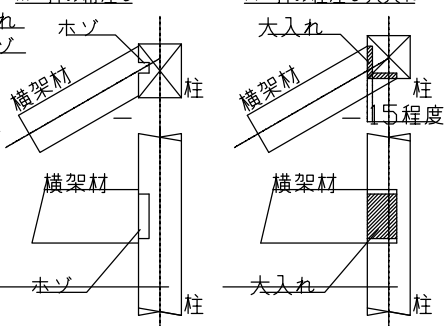
特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一列を、本節に示す。
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工工場が限定されるので注意すること。
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

L 斜め胴差し

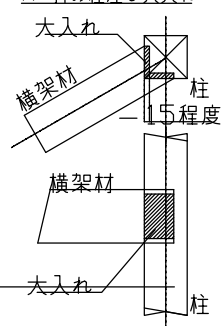


※ L,Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。
※ L,Mともに、柱梁の緊結には引きボルトの代わりにコーナー金物を使用すること。
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。

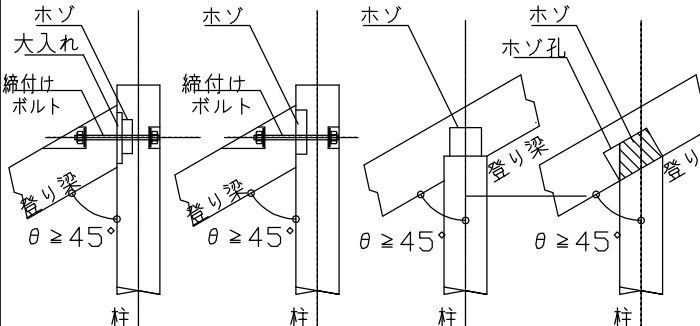
M 斜め桁差し



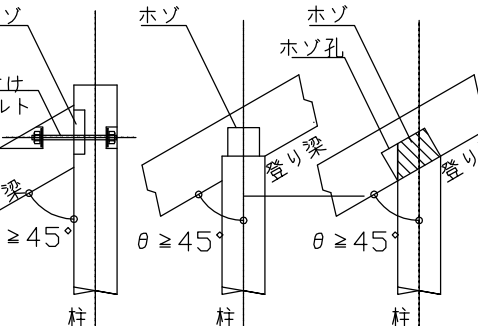
N 斜め柱差し大入れ



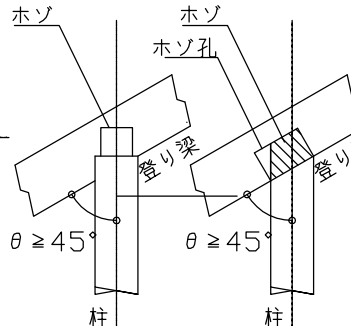
O 登り胴差し



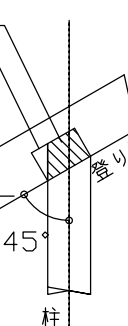
P 登り桁差し



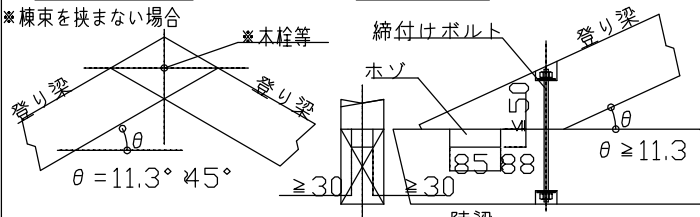
Q 登り斜めホソ



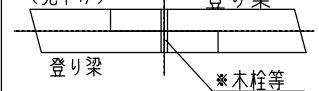
R 登り座付きホソ



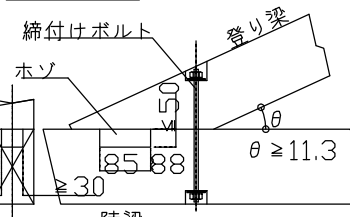
S 登り梁合掌部



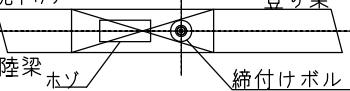
※ 棟束を挟まない場合



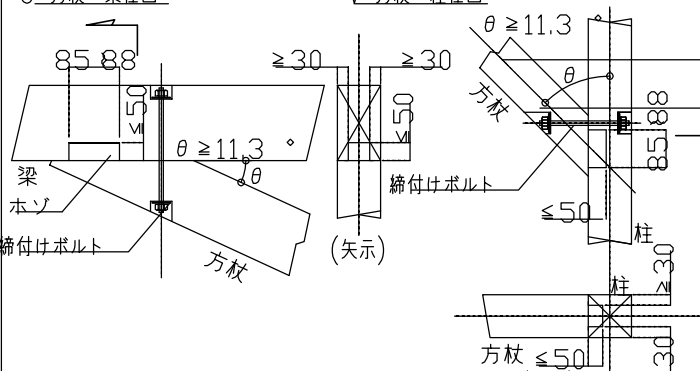
T 登り梁合掌尻



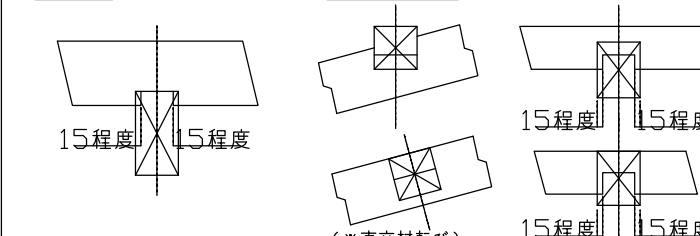
※ 棟束を挟まない場合



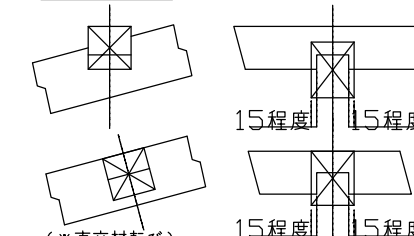
U 方杖-梁仕口



W 渡り類

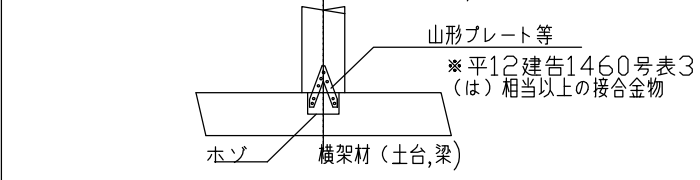


X 登り梁渡り類



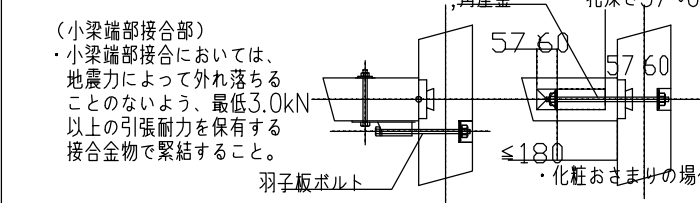
(4) 継手・仕口の補強金物

・耐力壁柱の柱脚・柱頭においては、耐力壁による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の柱脚接合部には、5.1kN以上の引張耐力を保有する接合金物(平12建告1460号表3に対応する表符号の"は"相当以上)を使用すること。



(梁-梁 接合部)

・水平断面の外周部横架材接合部においては、床水平断面による引抜力を計算し、引抜力以上の耐力を保有する接合金物を使用すること。
・上記以外の接合部には、7.5kN以上の引張耐力を保有する接合金物を使用すること。(右図参照)



(小梁端部接合部)

・小梁端部接合部においては、地震力によって外れ落ちることのないよう、最低3.0kN以上の引張耐力を保有する接合金物で緊結すること。
・化粧おさまりの場合

木造軸組接合部標準図(3)

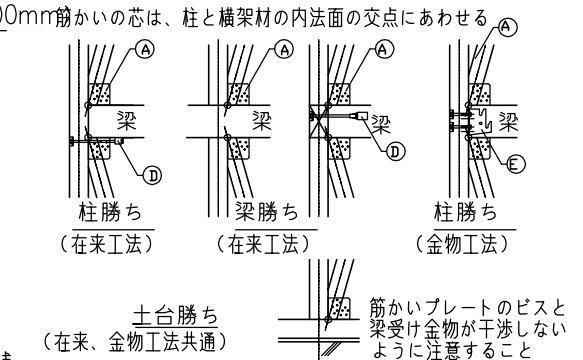
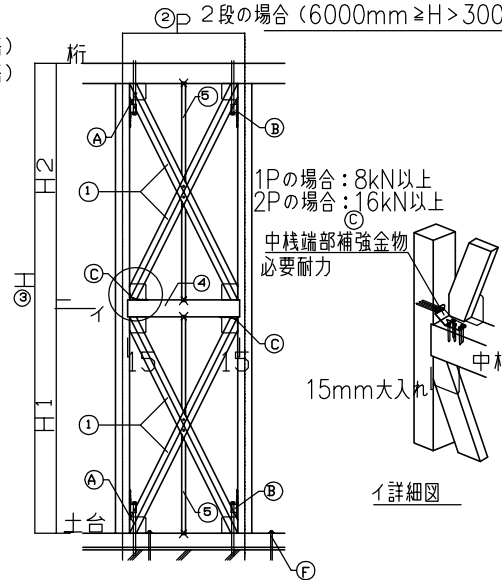
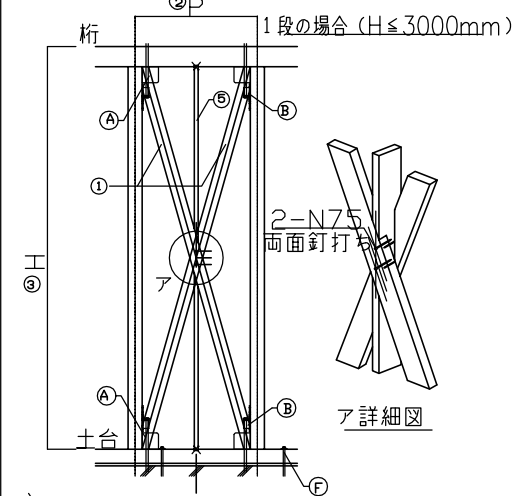
6. 耐力壁

6.1 共通事項

各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする。2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること。
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐久力を持つスペーサー材を挿入し隙間を埋めること。
柱の有効細長比(断面の最小二次率半径に対する座屈長さの比)は、150以下とすること。

6.2 耐力壁の仕様 (1) 施行令46条に準じた耐力壁

a. 筋かい耐力壁: 45×90以上 (片筋かい壁倍率: 2.0倍)
(たすき掛け壁倍率: 4.0倍)



- 1) 各部材料および寸法
- ① 筋かい: 45mm×90mm以上(節目切れ等軽微なもの)
 - ② 柱間隔: 900mm ≤ P ≤ 2000mm
 - ③ 高さ H ≤ 3000mm: 1段、H > 3000mm: 2段
2段の場合: 6000mm ≥ H > 3000mm
H1及びH2は、H/2内外
 - ④ 中棧: 幅: 柱と同等、成 ≥ 柱幅
 - ⑤ 間柱: 幅30mm以上、間隔500mm 端部は上下横架材の間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち

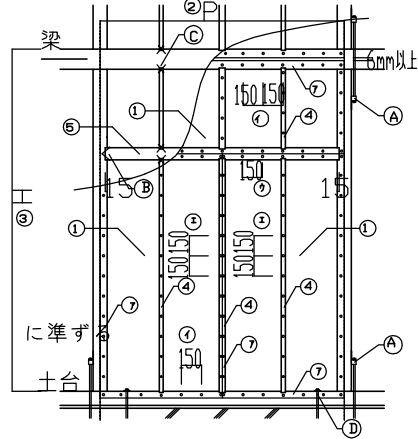
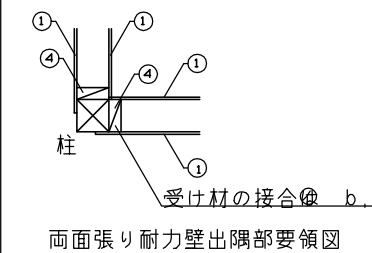
2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 筋かい端部: 突き付けの上、筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
- ⑤ 各階の柱頭柱脚部: ホソ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- ⑥ 中棧端部: 15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力: 1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
- ⑦ 梁端部在来仕口部補強金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする ⑧ 梁端部金物工法梁受け金物: 耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
- ⑨ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

(2) 昭56建告1100号に準じた耐力壁

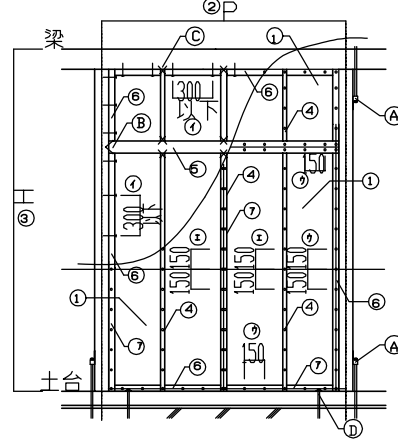
a. 面材張り大壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率: 2.5倍)
(両面張り壁倍率: 5.0倍)



b. 受け材付き真壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率: 2.5倍)
(両面張り壁倍率: 5.0倍)



1) 各部材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
- ② 柱間隔: 600mm ≤ P ≤ 2000mm ③ 高さ: H ≤ 6000mm
- ④ 間柱: 幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は幅45mm以上)
- ⑤ 中棧: 幅90mm以上

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各階の柱頭柱脚部: ホソ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- ⑤ 中棧端部: まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- ⑥ 間柱端部: 間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- ⑦ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

3) 構造用合板の釘打ち方法

- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
- ⑦ 柱及びはりに対するかかり寸法: 22.5mm以上
合板に対するへり空き: 10mm以上
柱はりのへり空き: 12.5mm以上
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
- ⑧ 横架材・柱: N50@150mm以下
- ⑨ 中棧: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

1) 各部材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
- ② 柱間隔: 600mm ≤ P ≤ 2000mm ③ 高さ: H ≤ 6000mm
- ④ 間柱: 幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は幅45mm以上)
- ⑤ 中棧: 幅90mm以上 ⑥ 受け材: 幅45mm以上

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各階の柱頭柱脚部: ホソ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- ⑤ 中棧端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
- ⑥ 間柱端部: 突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
- ⑦ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M12以上のアンカーボルトを耐力壁面端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置

3) 構造用合板の釘打ち方法

- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする
- ⑦ 受け材に対するかかり寸法: 22.5mm以上
合板に対するへり空き: 10mm以上
受け材のへり空き: 12.5mm以上
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
- ⑧ 受け材と柱はり: N90@300mm以下(両面構造用合板(又はOSB)張りの場合は@150以下)
- ⑨ 受け材、中棧: N50@150mm以下 ⑩ 間柱: N50@150mm以下

(3) 高耐力仕様構造用合板張り耐力壁(JIS A 3301標準仕様): 短期許容せん断耐力ΔQa=29.6kN/m

本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること

a. 条件及び仕様

1) 各部材料

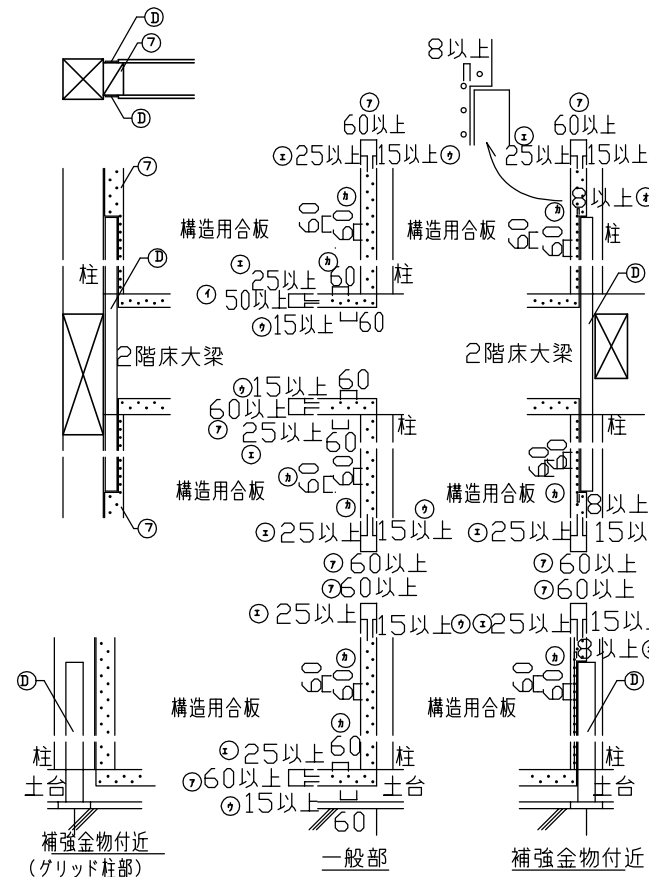
- ① 面材: 構造用合板 t=12mm 両面張り
- ② 間隔: 900mm ≤ P ≤ 1000mm
- ③ 高さ: 1800mm ≤ H ≤ 3650mm
- ④ 高耐力壁を用いる場合のグリッド柱: 150mm×150mm以上
(グリッド柱: X方向とY方向の主要鉛直構面の交点の柱)
- ⑤ 高耐力壁の端部および合板継目部の柱: 120mm×120mm以上
- ⑥ 構造用合板継ぎ目部補強材: 120mm×120mm以上
- ⑦ グリッド柱に取付く受け材: 75mm×120mm以上
- ⑧ 間柱: 見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔P/3以下
- ⑨ 小柱: 120mm×120mm以上

2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 柱頭柱脚部: 厚さ30mm×深さ90mm以上
- ⑤ 中棧端部: 片側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm×深さ90mmホソ差し
両側から柱に取り付く場合: 厚さ30mm×深さ60mmホソ差し
- ⑥ 間柱面端: 横架材への溝加工及び15mm程度大入れ
- ⑦ 各階の柱頭柱脚部: 水平力時に柱頭柱脚各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑧ 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト: M16アンカー

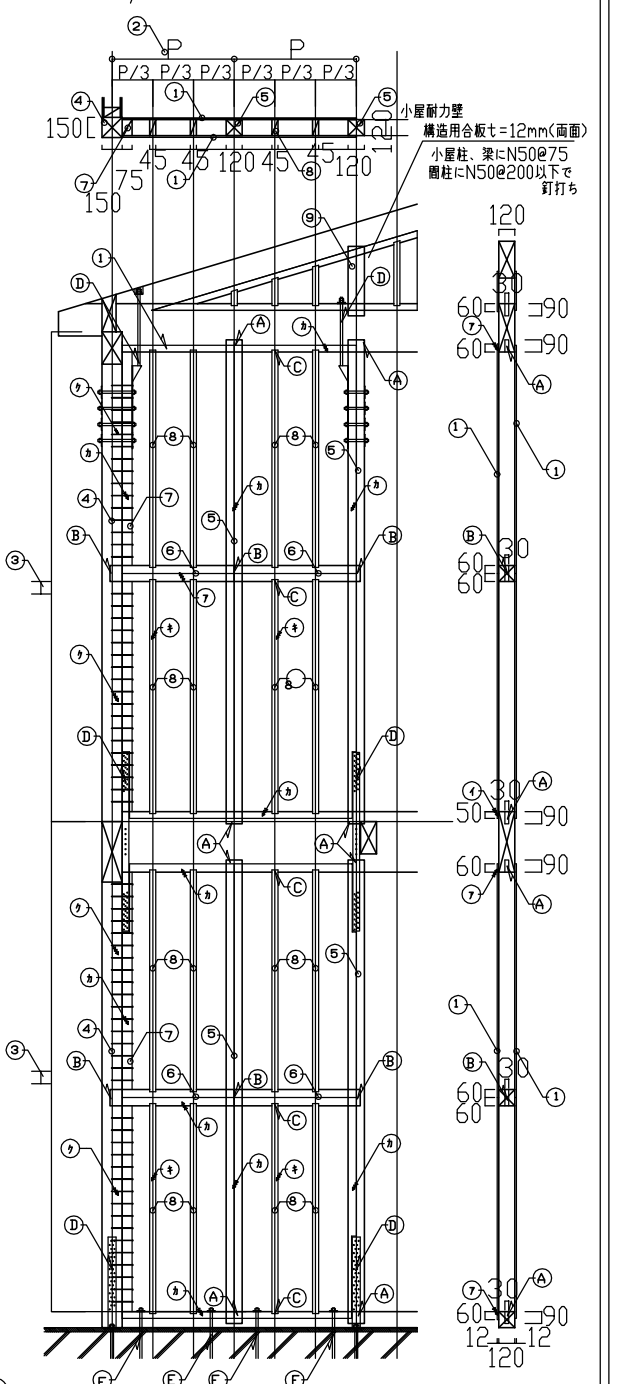
3) 各部への釘打ち及び耐力壁面P当り2本設置

- 構造用合板はたて張り、4周を釘打ちする
- ⑦ ①を除き、柱及びはりに対するかかり寸法: 60mm以上
- ⑧ 2階耐力壁合板を2階床大梁へ留め付ける場合かき代: 50mm以上
- ⑨ ③を除き、合板に対するへり空き: 15mm以上
- ⑩ 柱はりのへり空き: 25mm以上
- ⑪ 金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き: 8mm以上
- ⑫ 横架材・柱・受け材: N50@60mmチドリ打ち
- ⑬ 間柱: N50@90mm打ち
- ⑭ ⑦の受け材とグリッド柱: 木質構造用ビスφ6、L130 150@100(2列)で留め付ける



6.3 その他の耐力壁

- 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)の詳細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様に基づき準拠することとする。
- 大臣認定を取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。



釘打ち要領図

主要鉛直構面の交点の柱(グリッド柱)は
150mm×150mm以上とする



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
若手廣笠石市岡石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6438AX0193-23-6712

一級建築士事務所
若手廣
第4711号
一級建築士登録
第199484号
八幡廣正

承認

審査

検図

製図

特記

改訂番号 改訂月日 改訂内容

業務番号

工事名称

両石地区集会所建設(建築主体)工事

図面内容 木造軸組接合部標準図(3)

縮尺

図例 建築構造 S-04

木造軸組接合部標準図(4)

7. 水平構面

(注) (単位)mm

7.1 共通事項

- ・各部仕口形状は、(3)高耐力仕様屋根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。
- ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様に基づき準拠することとする。

7.2 水平構面の仕様

(1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面

(a) 日の字釘打ち

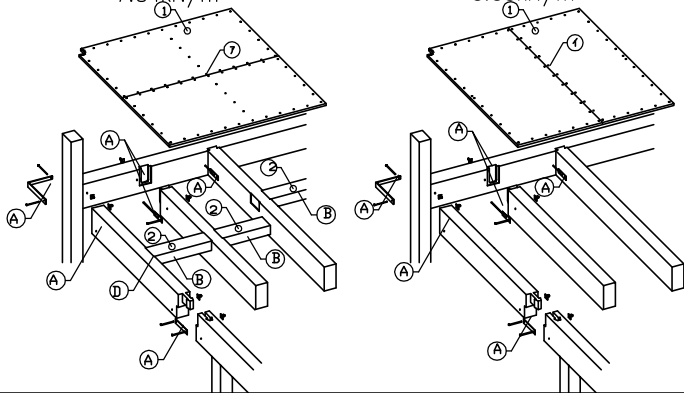
短期許容せん断耐力

7.84kN/m

(b) ロの字釘打ち(川の字)

短期許容せん断耐力

3.53kN/m



1) 各部材料および寸法

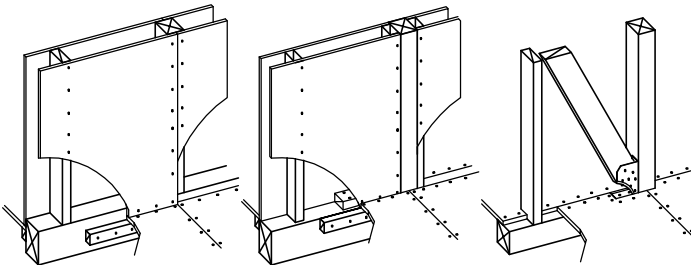
- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm}\sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 甲乙梁: 幅 45mm 以上 \times せい 45mm 以上・梁及び甲乙梁の間隔 1000mm 以下
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ③ 各仕口部分:
 - ・水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
 - ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
 - ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
 - ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ N75 1本斜め打ち
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75 $\phi 150\text{mm}$ 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける
- ⑧ 構造用合板はN75 $\phi 150\text{mm}$ ロの字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける

注意事項: 構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする
 2mm を超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること
ロの字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、
たわみ等に注意する事

告示耐力壁-床納まり
大壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

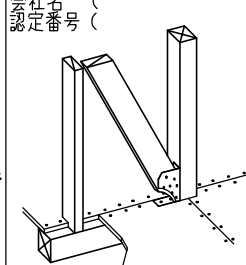
真壁合板耐力壁-床構面
(壁勝)

筋違耐力壁-床構面
(筋違勝)



認定仕様例示) 日合連(JPMA)仕様耐力壁-床勝納まり
大壁合板耐力壁-床勝 真壁合板耐力壁-床勝
認定番号: FRM-0296 認定番号: FRM-0298

筋違金物による床勝ち納まり
筋違耐力壁-床構面
(床勝: 大臣認定仕様)
会社名
認定番号()



(2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面

(a) 登梁-厚合板

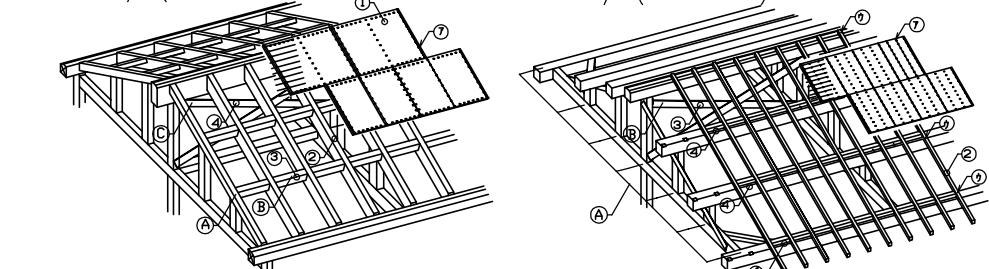
短期許容せん断耐力

7.84kN/m(勾配面に対して)

(b) 垂木-合板

短期許容せん断耐力

1.96kN/m(勾配面に対して)



1) 各部材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm}\sim 30\text{mm}$ 横架材に直貼
- ② 登梁: 幅 105mm 以上 \times せい 105mm 以上間隔 1000mm 以下
- ③ 甲乙梁: 幅 45mm 以上 \times せい 45mm 以上間隔 1000mm 以下
- ④ 小屋耐力壁: 15mm 以上 $\times 90\text{mm}$ 以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ⑤ 各仕口部分: 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑥ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑦ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑧ 構造用合板はN75 $\phi 150\text{mm}$ 日の字に垂木に留め付ける

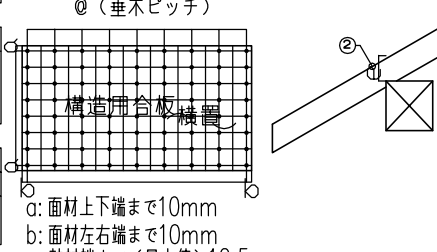
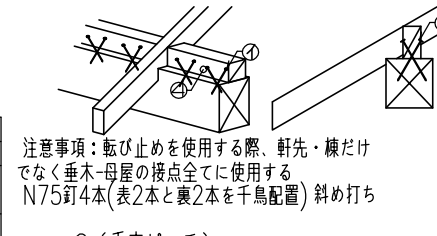
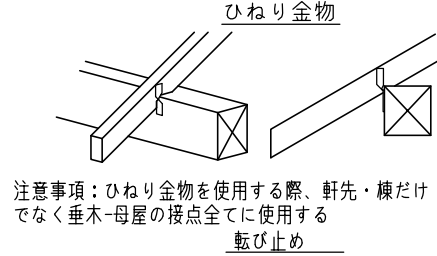
注意事項: 構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、 2mm を限度とする

1) 各部材料および寸法

- ① 面材: 構造用合板 $t=9\text{mm}\sim 15\text{mm}$ (横置)
- ② 垂木: 幅 45mm 以上 \times せい $45\text{mm}\sim 90\text{mm}$ $\phi 500\text{mm}$ 以下
- ③ 小屋耐力壁: 15mm 以上 $\times 90\text{mm}$ 以上
(端部は平12建告1460号の筋違耐力壁の接合)
- ④ 転び止め: $45\text{mm}\times 60\text{mm}$ 程度
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ⑤ 母屋ピッチ: 1000mm 以下
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線上には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN50 $\phi 150\text{mm}$ で川の字に垂木に留め付ける
- ⑧ 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
- ⑨ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒桁、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち

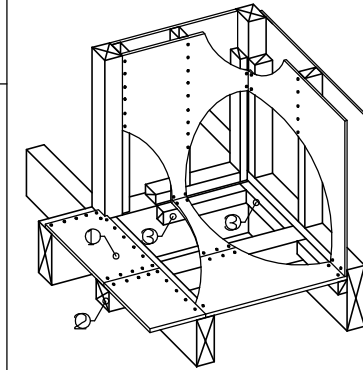


a: 面材上下端まで 10mm
b: 面材左右端まで 10mm
c: 軸材端まで(最小値) 12.5mm

7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

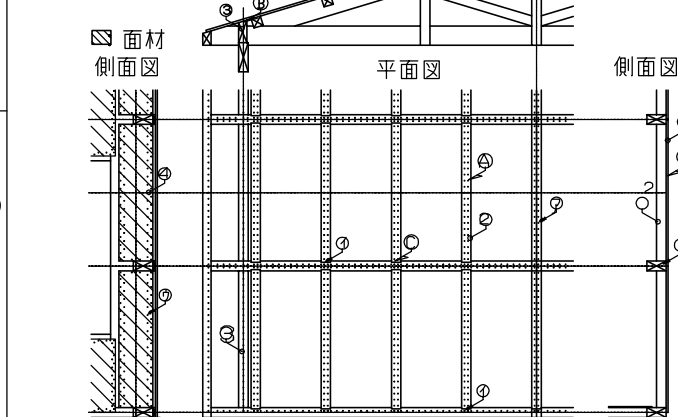
(1) 2階床水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
14.1kN/m



(2) 屋根水平構面の条件及び仕様

短期許容せん断耐力
13.5kN/m(合板釘ピッチ75mm)
19.1kN/m(合板釘ピッチ50mm)



1) 各部材料

- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm}$ 又は 28mm 横架材に直張り
- ② 甲乙梁: $90\text{mm}\times 90\text{mm}$ の正角材又は幅 $75\text{mm}\times$ 成 120mm 製材を平使い
- ③ 大梁側面に取り付ける床受け材: 幅 $55\text{mm}\sim 75\text{mm}\times$ 成 120mm の製材
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
- ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ $15\text{mm}\times$ 成 60mm 切り欠き甲乙梁は成 60mm 分大入れし床受け材勝ちの納まりとする
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑧ 構造用合板はN75 $\phi 75\text{mm}$ 日の字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける
- ⑨ 大梁側面へ取り付けの床受け材は木質構造用ビス $\phi 6$, L130 ~ 150 を 150mm ピッチの二列打ちとして留め付ける

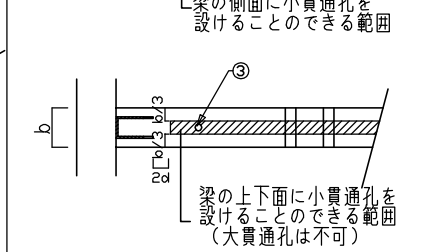
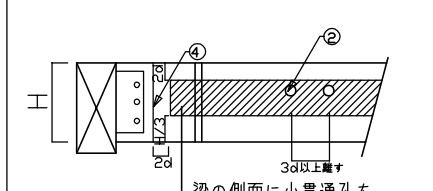
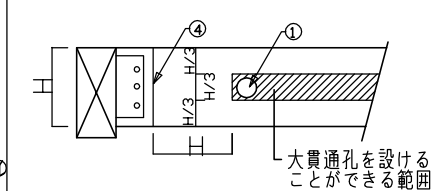
1) 各部材料

- ① 面材: 構造用合板 $t=24\text{mm}$ 登梁及び母屋に直張り
- ② 母屋: 幅 $120\text{mm}\times$ 成 120mm の製材
多雪区域(3級及び4級)の場合は幅 $120\text{mm}\times$ 成 150mm の製材
- ③ 軒先転び止め: 幅 $105\text{mm}\times$ 成 300mm の製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
- ④ 軒先転び止めの外面に直貼りする構造用合板: $t=12\text{mm}$
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
- ⑥ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
- ⑦ 母屋端部は登梁に対して深さ 15mm 程度の大入れ
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑧ 13.5kN/m仕様: 構造用合板はN75 $\phi 75\text{mm}$ 4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
19.1kN/m仕様: 構造用合板はN75 $\phi 50\text{mm}$ 4周(ロの字)釘打ちで登梁及び母屋に留め付ける
- ⑨ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス $\phi 5$, L150(頭部径 $\phi 12.5$ 以上ねじ部長さ50以上)1本を斜め打ちとする
- ⑩ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50 ϕ を 50mm ピッチの千鳥打ちとして留め付ける

8. 貫通孔

8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔: $d\leq H/4$ かつ 150mm
- ② 小貫通孔: $d\leq 30\text{mm}$ (隣り合う孔は $3d$ 以上離す)
- ③ 縦小貫通孔: $d\leq b/6$ かつ 30mm
- ④ 接合金物用切り欠きライン



8.2 耐力壁貫通孔

(1) 小開口付耐力壁: 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)

※壁倍率/倍までの孔開けルール

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

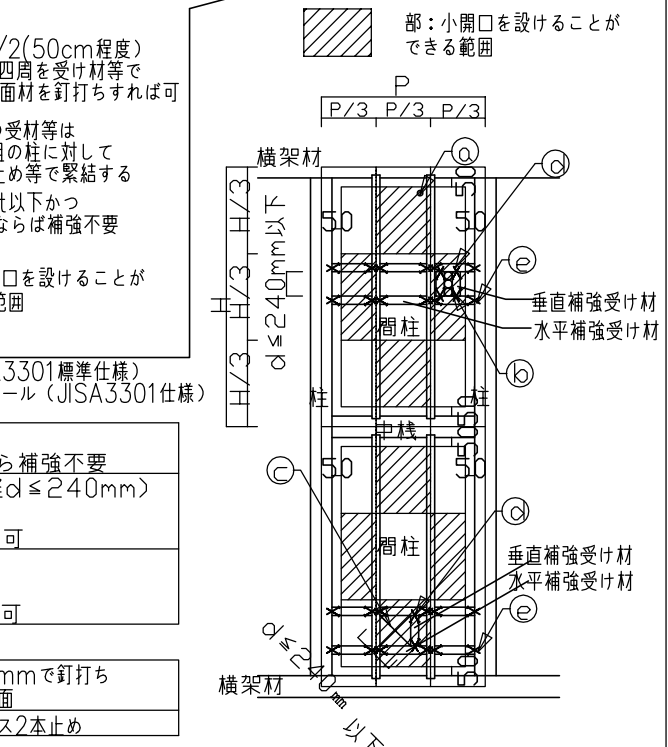
※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方

※耐力壁の小開口の設け方



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
岩手県釜石市南石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6438AX0193-23-6712

一級建築士事務所
若手係
第14711270号
一級建築士登録
第199484号
八幡康正

承認

審査

検図

製図

特記

改訂番号 改訂月日 改訂内容

業務番号 工事名称

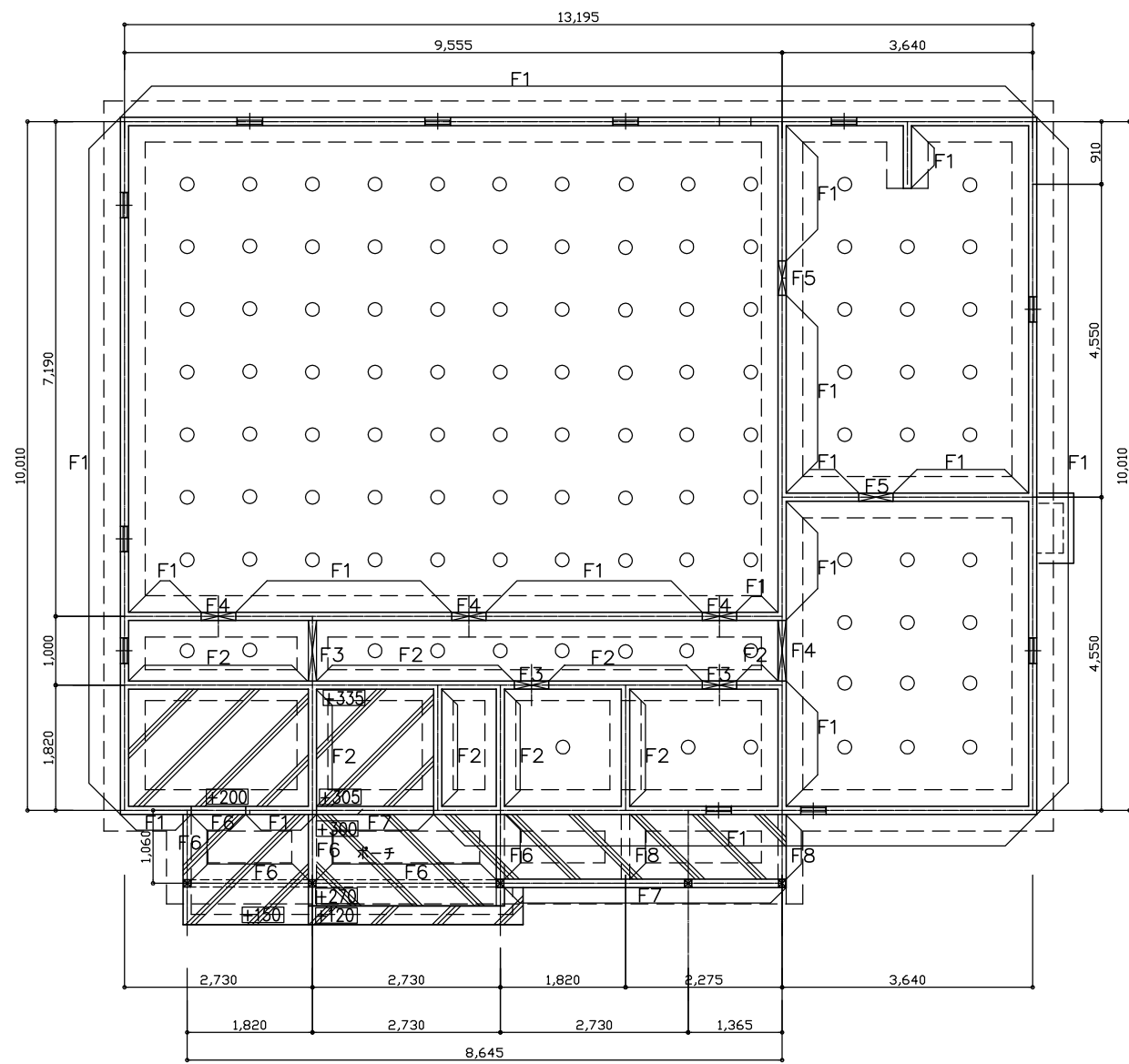
両石地区集会所建設(建築主体)工事

2020-7 図面内容

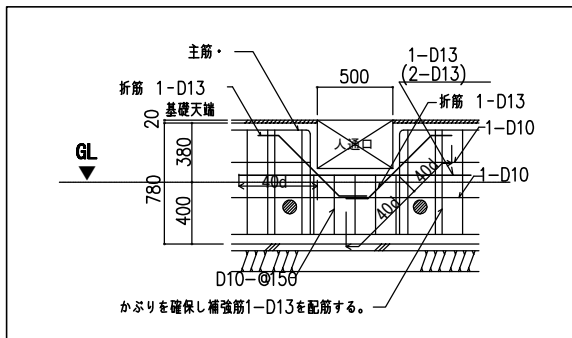
木造軸組接合部標準図(4)

縮尺

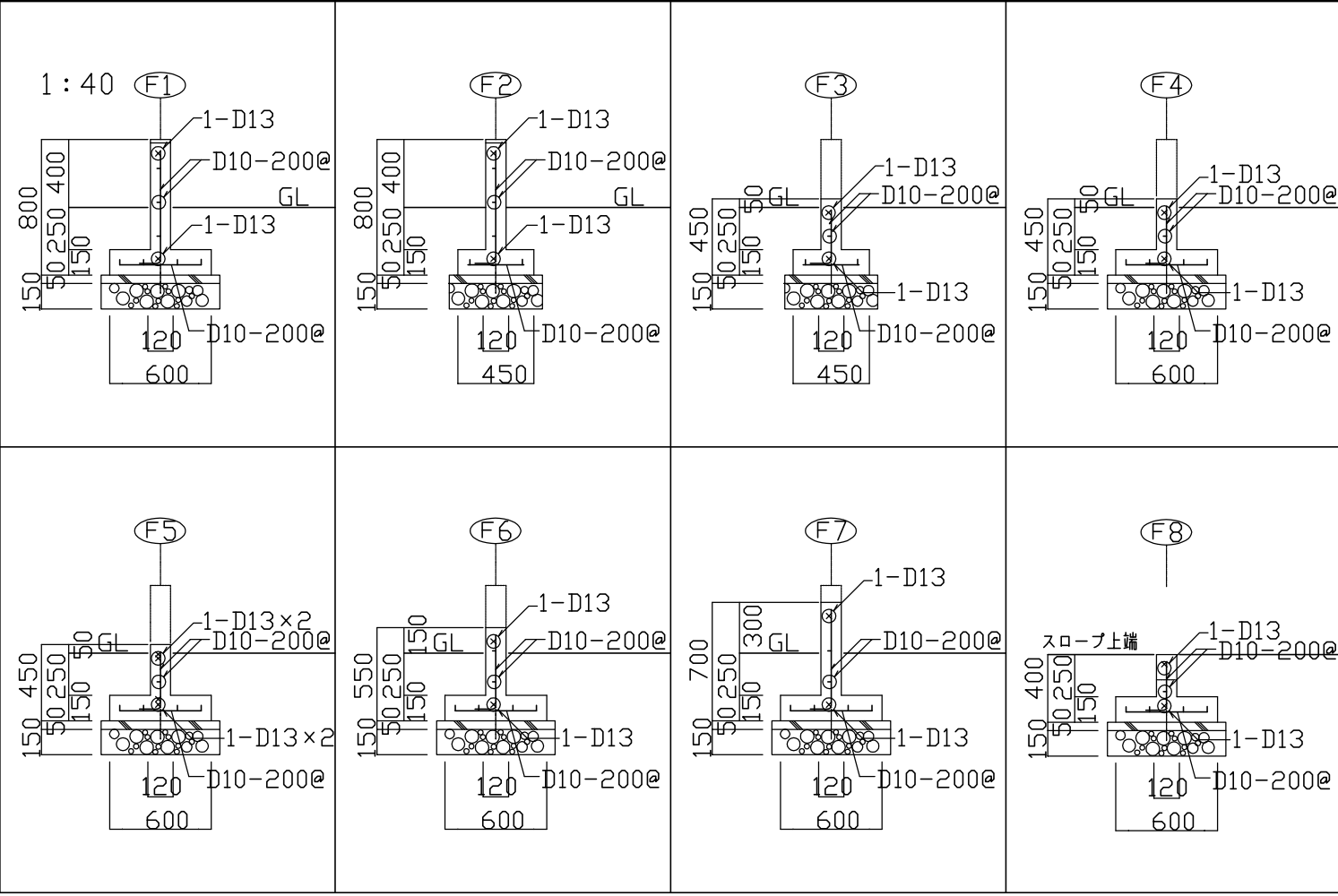
建築構造
S-05



基礎伏図 S=1/100



- 土間コンクリート t=60
ワイヤメッシュ100*100*6
- 土間スラブ t=150
D13-200 (タテヨコ)



基礎リスト S=1/40

支持地盤	小規模建物基礎設計指針 (平成12建告第1347号) 許容地盤支持力: $q_a = 30$ (KN/m ²) 以上 布基礎
床下換気口	外壁廻り オート床下換気口 H165xW410 (杉田エース322-885) 同等 内部廻り H350xW500
基礎碎石	t=150 ロ-ラ転圧 (40~0)
防湿材(土間下)	砂敷 t=30 敷込み 防湿シート t=0.15 敷込み
断熱材(土間下)	ポリスチレンフォーム t=30敷込み B-2(玄関)
建物内	土間コンクリート t=60打設 金ゴテ仕上 ワイヤメッシュ 6φx100x100
建物外	土間スラブ t=150打設 金ゴテ仕上 D13-200 (タテ、ヨコ)
コンクリート	一般 21-18-25 土間 21-15-25
鉄筋	D10 200 コーナー、端部、補強筋 D13入れ
アンカーボルト	M12 L=450 2730以内打込みその他 住宅保証機構標準金物打込み
金物関係	アンカーボルト、隅柱 引き寄せ金物、全て 住宅金融支援機構 フラット35仕様にあずかる 金物取付計画書提出の事
床束	床束 既製品 鋼製安心束AT-330 910 朝日ウツテック同等品

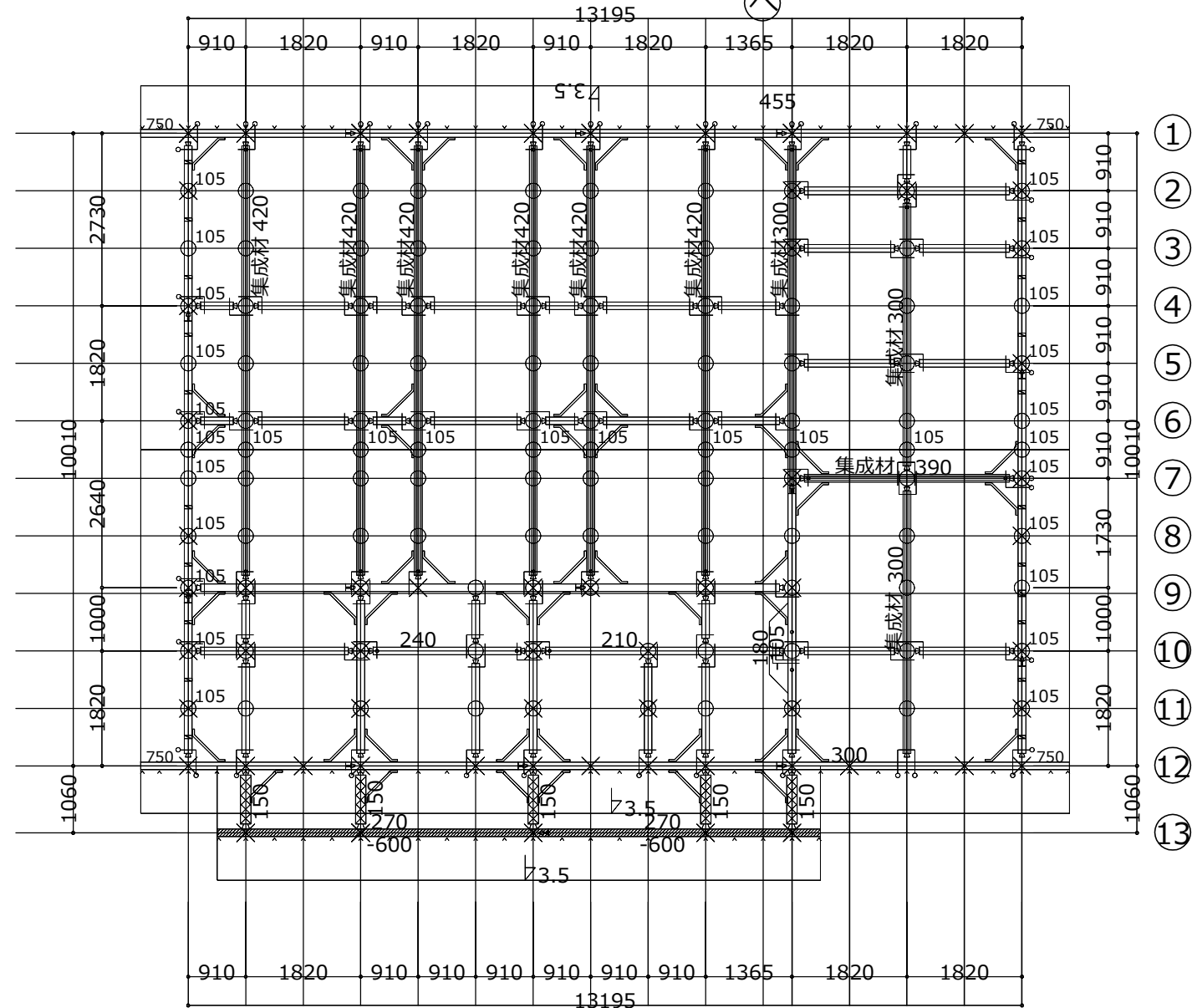
①



記号	仕様・・	備考	
□	短ほど差し+かすがい打ち	【1.08KN】	い
L	C P-L	【3.38KN】	ろ
N	長ほど差し込み栓打	【3.81KN】	ろ
T	C P-T	【5.07KN】	は
V	山形ブレ	【5.88KN】	は
P	羽子板ボルト	【7.50KN】	に
I	短冊金物	【7.50KN】	に
Ps	スクリュ	【8.50KN】	ほ
I s	スクリュ釘併用羽子板ボルト	【8.50KN】	ほ
2	10KN釘併短冊金物	【10.00KN】	へ
3	15KN引き寄せ金物	【15.00KN】	と
4	20KN引き寄せ金物	【20.00KN】	ち
5	25KN引き寄せ金物	【25.00KN】	り
6	35KN高耐力面ネジボルト	【35.00KN】	

土台：米つが防腐処理材 105*105
大引：米松 K D材 105*105
根太：米松 K D材 45*60@303
火打土台：米つが防腐処理材 90*45
筋違：米松 K D材 45*90

たよかわをるぬりちとほにはろい



凡例			
×	柱 杉KD材 : 105*105	／	火打ち金物
○	小屋束 : 105*105 小屋束 : 90*90 杉KD材	⊗	登り梁105*150 米松

桁、梁材 : 米松材又はカラ松集成材

※記載の無い部材 : 105*105

間柱 杉KD材 : 105*45

マグサ材 杉KD材 : 105*45

ハガラ材 杉KD材 : 105*30



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
岩手県釜石市南石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6436 FAX0193-23-6712

一級建築士事務所
岩手県
第2 (2211) 1270号
一級建築士登録
第199484号
八幡康正

承認

審査

検図

製図

特記

toyooka

改訂番号

改訂月日

改訂内容

業務番号

工事名称

両石地区集会所建設 (建築主体) 工事

2020-7

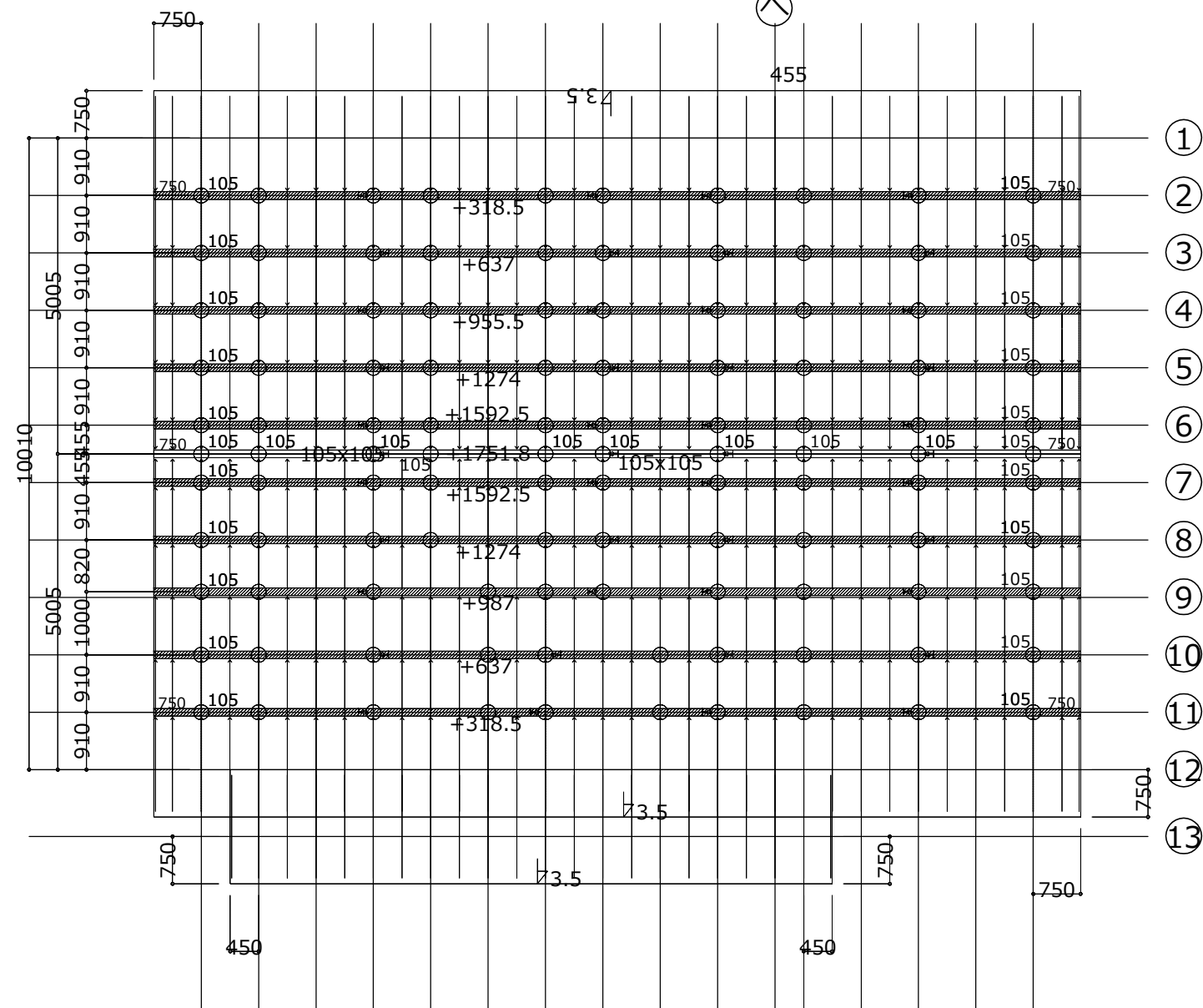
図面内容

小屋伏図

縮尺
A1 1:50
A3 1:100

図章
建築意匠
S-08

たよかわをるぬりちとほにはろい



母屋 : 米松KD90*90@910
棟木 : 米松KD105*105
垂木 : 米松KD45*60@455



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
岩手県釜石市南石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6436 FAX0193-23-6712

一級建築士事務所
岩手県
第2 (2211) 1270号
一級建築士登録
第199484号
八幡康正

承認

審査

検図

製図

特記

toyooka

改訂番号 改訂月日 改訂内容

業務番号

工事名称

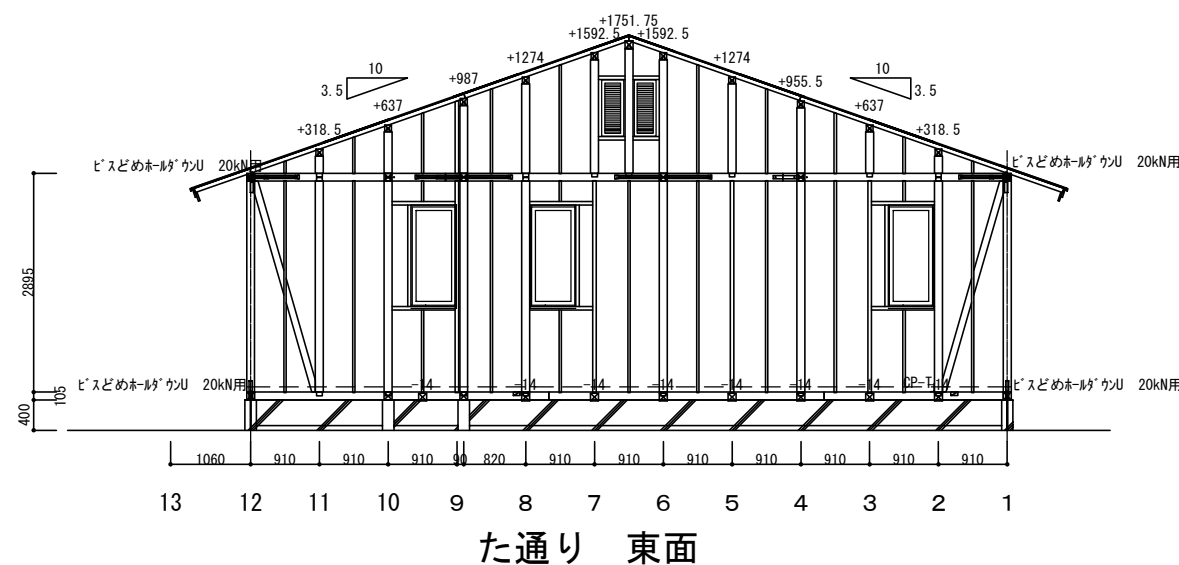
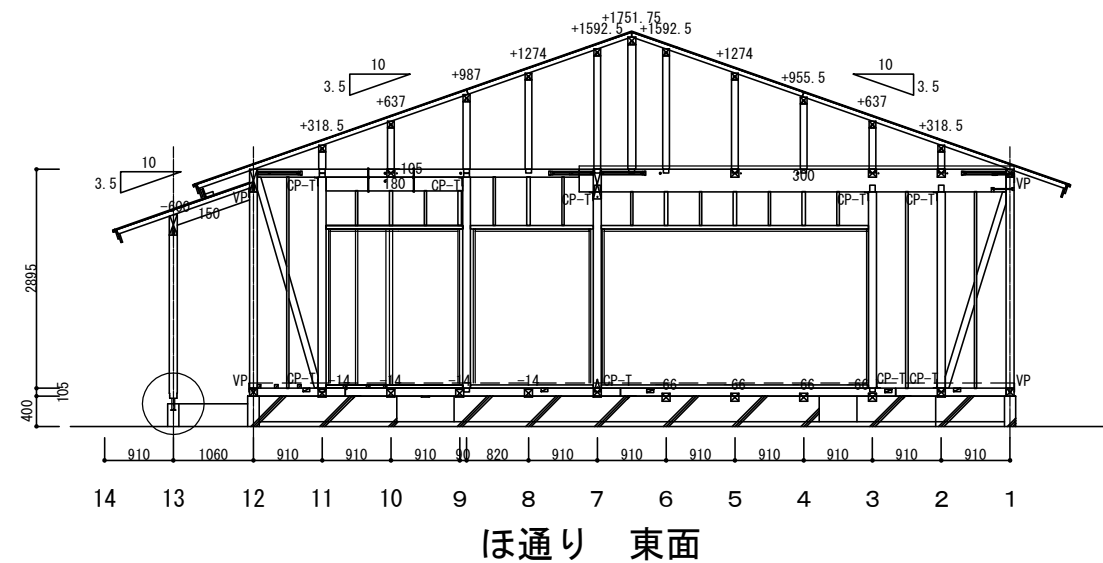
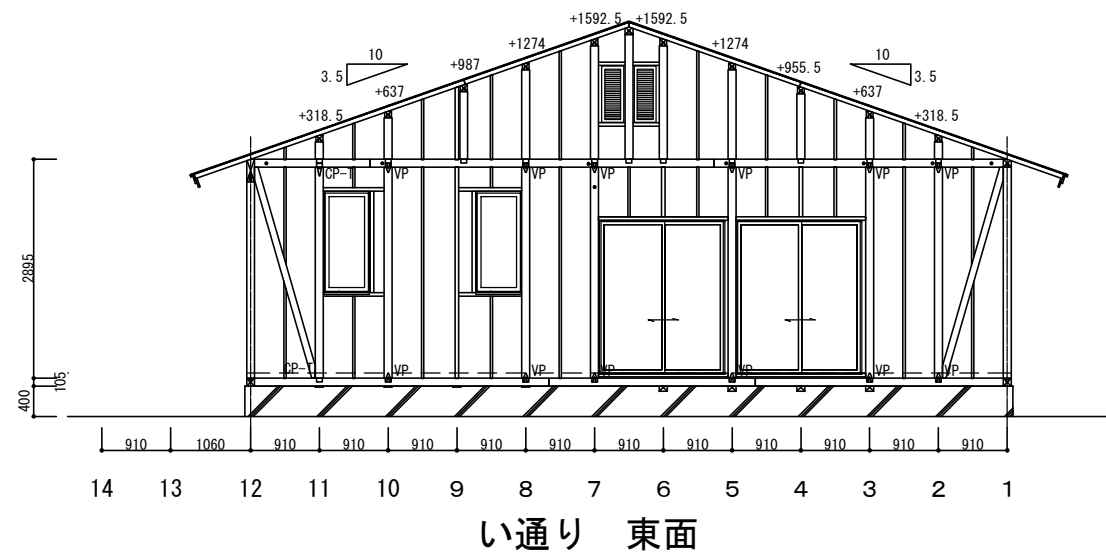
両石地区集会所建設（建築主体）工事

図面内容

母屋伏図

縮尺
A1 1:50
A3 1:100

図章
建築意匠
S-09



金物の表記 【引抜耐力】

記号	仕様・・	備考
□	短ほぞ差し+かすがい打ち	【1.08KN】い
L	CP-L	【3.38KN】ろ
N	長ほぞ差し込み栓打	【3.81KN】ろ
T	CP-T	【5.07KN】は
V	山形プレ	【5.88KN】は
P	羽子板ボルト	【7.50KN】に
I	短冊金物	【7.50KN】に
Ps	スクリュ	【8.50KN】ほ
I s	スクリュ釘併用羽子板ボルト	【8.50KN】ほ
2	10KN釘併用短冊金物	【10.00KN】へ
3	15KN引き寄せ金物	【15.00KN】と
4	20KN引き寄せ金物	【20.00KN】ち
5	25KN引き寄せ金物	【25.00KN】り
6	35KN高耐力面ネジボルト	【35.00KN】



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
岩手県釜石市南石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6438 FAX0193-23-6712

一級建築士事務所
岩手県
第21(2211)1270号
一級建築士登録
第199484号
八幡康正

承認

審査

検図

製図

特記

改訂番号

改訂月日

改訂内容

業務番号

工事名称

両石地区集会所建設（建築主体）工事

図面内容

軸組図 1

縮尺

A1 1:50

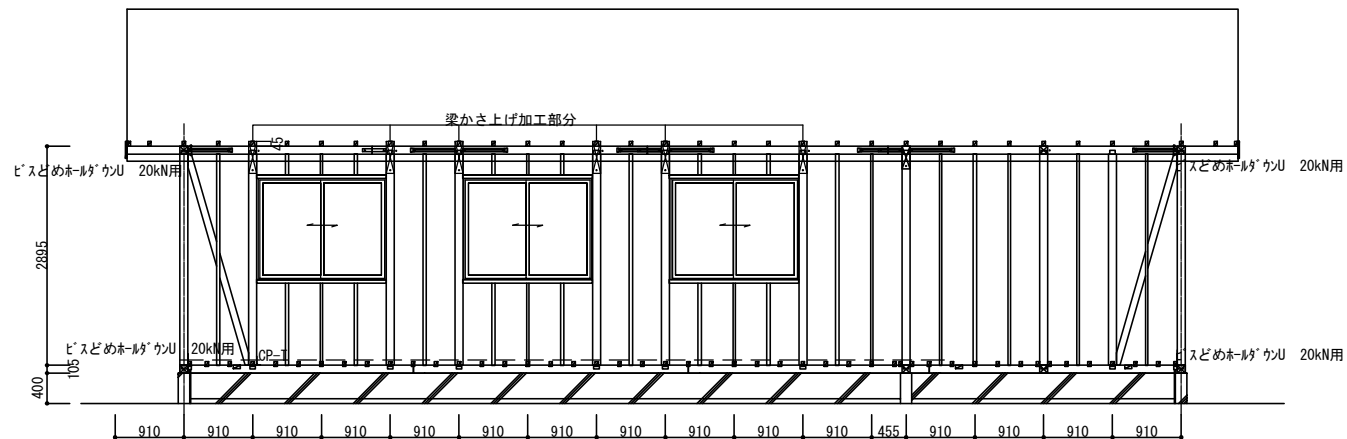
A3 1:100

図例

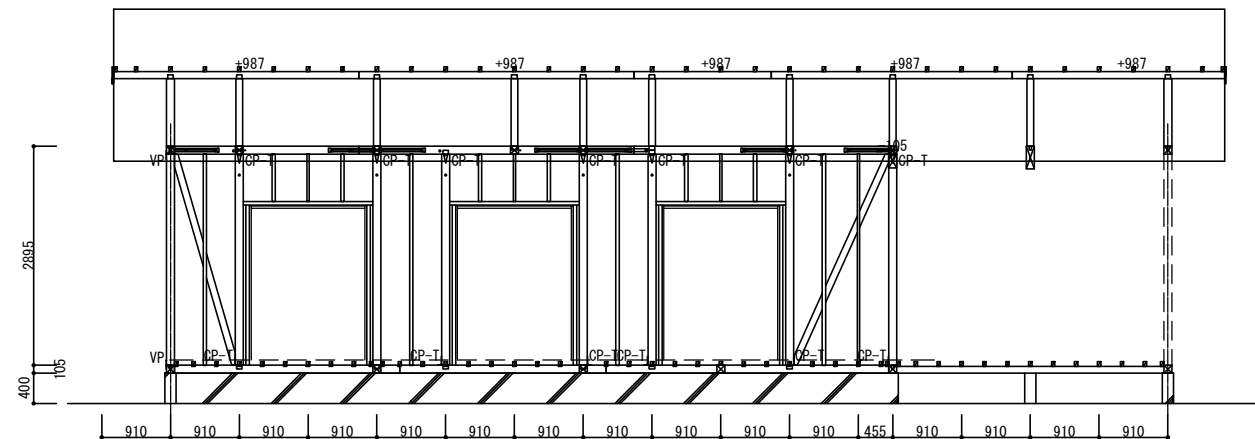
建築意匠

●●

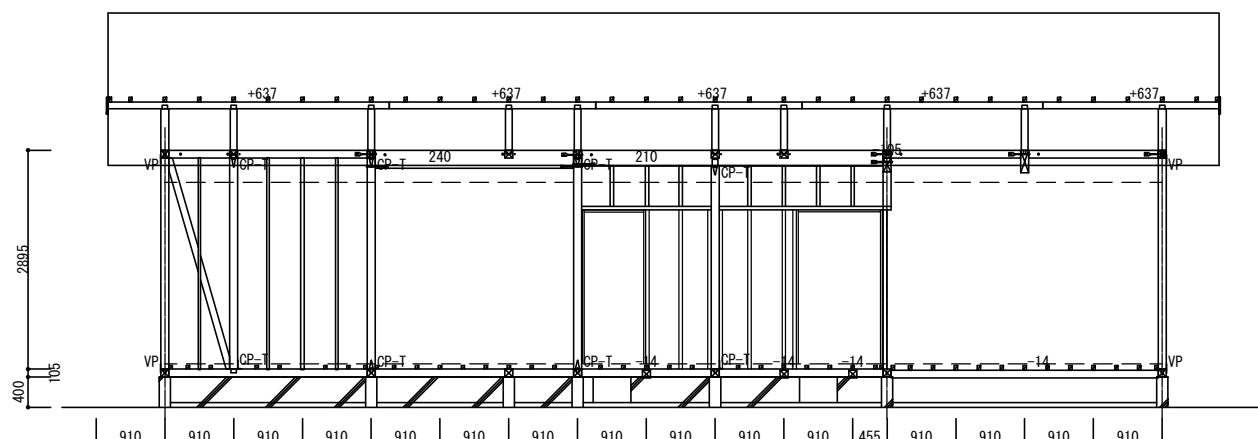
S-10



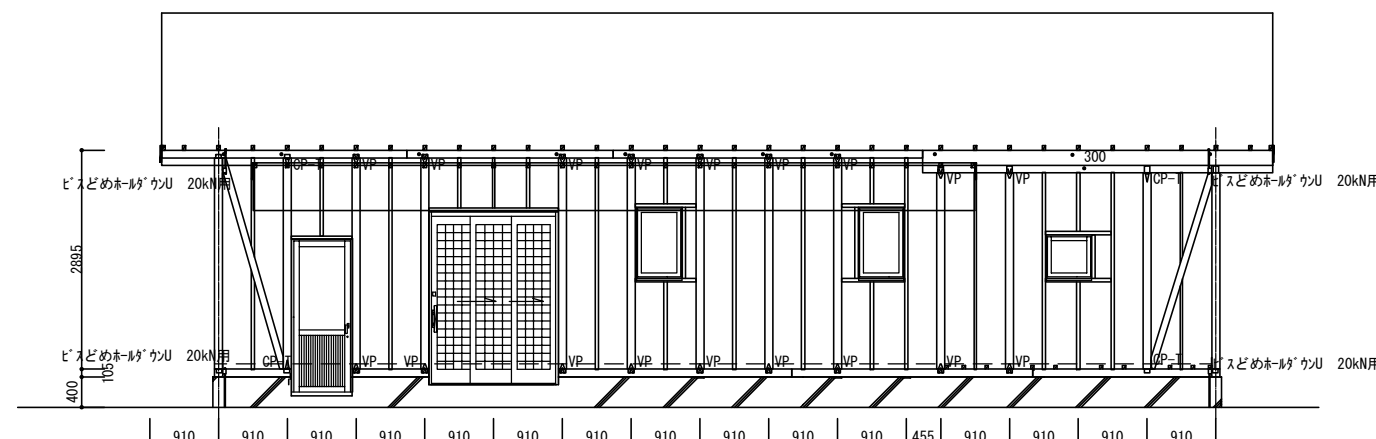
れ た よ か わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い
1通り 南面



れ た よ か わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い
又8通り 南面



れ た よ か わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い
10通り 南面



れ た よ か わ を る ん り ち と へ ほ に は ろ い
12通り 南面



YAHATA ARCHITECTS STUDIO
株式会社 八幡建設建築設計事務所
岩手県釜石市南石町第4地割26番地12
TEL0193-23-6438 FAX0193-23-6712

一級建築士事務所
岩手県
第2 (2211) 1270号
一級建築士登録
第199484号
八幡康正

承認

審査

検図

製図

特記

toyooka

改訂番号

改訂月日

改訂内容

業務番号

工事名称

両石地区集会所建設 (建築主体) 工事

図面内容

軸組図 2

縮尺

A1 1:50

A3 1:100

図例

建築意匠

●●●

S-11